

小規模校における課題の解決に向けて



全校集会活動における 異年齢集団活動の工夫



全校集会の実践
【特別活動】

小規模校における課題

- ① コミュニケーションを図る活動の機会が不十分
- ② 人間関係の固定化
- ③ 指示待ちになることが多く主体的に考えて動くことができない児童が多い実態

小規模校の **よさ** を生かしながら……

- **機動性**が高い
- **柔軟性**に富む



課題を克服するために

☆ 他者の意見を取り入れ協働して課題を解決する対話を軸とした体験を積みませたい！

そのために……

⇒ 異年齢集団活動を軸とした集会活動の充実を図る！

課題を解決するための手立て

計画的な集会活動の年間計画

課題を解決するため、
異学年集団活動を中心とした
集会活動を計画的に取り入れよう！



【集会活動のねらい】

- 自己有用感
 - 自己肯定感
 - 自己効力感
 - 人間関係の構築(人と関わる喜び)
 - リーダーの育成
- } を高める

集会活動計画

期日	集会の内容	期日	集会の内容
5月	上旬 JRC登録式 1年生を迎える会	10月	上旬 陸上選手壮行会
	下旬 全校集会①(特技披露集会)		下旬 全校集会④(和太鼓集団「鼓動」さんと交流集会)
6月	上旬 3・4年生集会	11月	上旬 全校集会⑤(伝統行事発表)
	中旬 校長訓話		中旬 音楽会出場者を励ます会
	下旬 校長訓話	12月	上旬 全校集会⑥(書道パフォーマンス集会)
			中旬 保健委員集会
7月	上旬 ひびき集会(伝統行事発表)	1月	中旬 全校集会⑦(決意集会)
	中旬 水泳選手壮行会		上旬 5・6年生集会
	中旬 全校集会②(学校探検集会)	2月	中旬 クロッキー集会 6年生をかこう
9月	上旬 1・2年生集会		下旬 校長訓話
	中旬 全校集会③(オリエンテーリング集会)	3月	上旬 全校集会⑧(お楽しみ集会)
	下旬 校長訓話		中旬 6年生を送る会

※ 毎月、献立がカレーの日を「全校給食」とする。

※ 集会は、原則として「こっこタイム」13:25～13:40(15分間)に実施する。必要に応じて、5時間目に実施したり併用したりして、時間を延長してもよい。

自己肯定感や自己有用感、自己効力感を高めるための集会活動

- 実践例① 特技披露集会
- 実践例② 伝統行事発表集会

【実践例】

1年6人	4年6人
2年4人	5年5人
3年4人	6年4人
計29人	

人間関係を構築するための集会活動

- 実践例③ 外部の方を招いての集会
- 実践例④ 全校給食集会

リーダーを育てるための集会活動

- 実践例⑤ 学校探検集会
- 実践例⑥ オリエンテーリング集会



※ 集会活動の特性や児童一人一人の発達の段階に応じて縦割り班を編成します。

実践例① 「特技披露集会」



自分の特技は何かと悩む児童もいるため、あらかじめ相談しておく、集会にスムーズに取り組むことができる。



【概要】 スノーボード、剣道、そろばん、ピアノ、バレーボール、レスリング、サッカー、バレエなどの習い事の特技や、地域の伝統芸能である「神楽」の舞を披露する児童が見られた。温かい雰囲気の中、緊張しながらも、堂々と特技を披露することができた。

ぼくは、みんなの前で剣道を披露しました。タイヤ打ちと型をしました。緊張したけれど、うまくできたのでよかったです。中学生になっても剣道を続けるので、更に技を極めたいです。
(6年生児童の日記一部抜粋)



ぼくは、小さいときから習ってる神楽を舞いました。次は太鼓をしたいです。
(2年生児童の日記一部抜粋)

ポイント

集会を単発で終わらせず、2回目、3回目と披露する機会を設けることによって、自分と向き合う時間が増え、自己肯定感が高まるきっかけとなる。

先生も一緒に特技を披露すると、更に盛り上がる！



全校集会 【特技披露集会】

流れ ※進行 6年

活 動	備 考
※ 事前準備	<p>【自分の特技を考えて、事前に練習しておく】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館でできるもの ・時間がかかりすぎないもの(目安:1分) ・学年に応じた内容 ・道具を使う場合は、各自で事前に準備する <p>【基本の発表の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼく(わたし)は〇年〇〇です。 ・好きな〇〇は、〇〇です。 ・得意なことは〇〇です。では、やってみます。 <p>※発達段階に応じて、変更や増量してかまわない。</p>
1 はじめのあいさつ	
2 縦割り班に分かれて、特技披露 ※各班の進行6年生	○ 3つの大きな円になり、一人ひとり披露する
3 感動した特技を一人選ぶ	○ 挙手で投票
4 全校の前で特技披露	○ 各班で選ばれた人は、全校の前で特技を披露する。
5 感想発表	
6 校長先生の話	
7 おわりのあいさつ	

発達の段階に合わせた発表の仕方を考えるとよい。例えば、高学年は、習い始めや苦労したこと、特技のPRなども発表させるとよい。

各班の代表者が、自信をもって披露できるように支援する。時間の都合上、代表者発表となる場合もあるが、希望者が発表してもよい。

実践例② 「伝統行事発表集会」

【概要】 総合的な学習の時間に、地域に伝わる伝統行事を地域の方に教えていただき、それらを地域に向けて発表する機会を設けた。

【5・6年生】
地域に伝わる神楽
「大蛇退治」を披露

全校児童や保護者、地域の方の前で学んだこと（神楽や和太鼓）を披露！いろいろな人に称賛の声を掛けてもらうことで、自己肯定感や自己有用感、自己効力感を高めることができた。

【3・4年生】
和太鼓ミュージカル
「北針」を披露



神楽保存会の方から地域に伝わる神楽を教えてもらい、ひびき集会で発表しました。たくさんの人に見られて緊張したけれど、保存会の方から教えてもらったことを発表することができて、地域の一員になれた気がしました。お祭りでも発表するので、更によいものにしていきたいです。

（6年生児童の日記一部抜粋）

ポイント

外部の方々を招く場合は、しっかりと連携を図り、事前の打ち合わせを重ねながら、活動の先を見通した準備と教員の役割等の共有が大切である。

活動の最後に振り返りを行い、上級生のかっこよかったところや下級生の頑張っていたところなどを発表し合い、互いに認め合うことで、自己肯定感や自己有用感、自己効力感を高めることができた。

実践例③「外部の方を招いての集会」

川之石高校による書道パフォーマンス



全国で活躍されている和太鼓集団「鼓動」との交流

【概要】 高校生による書道パフォーマンスの後、作品の空いているスペースに児童の名前を書かせていただいた。普段は交流することない高校生と楽しく会話をしながら活動することができた。

【概要】 「鼓動」との交流では、演奏を聴いた後、太鼓のたたき方やリズムの取り方などを教えていただいた。この集会在きっかけとなり、実践例②の和太鼓ミュージカルの活動へ意欲を高めることができた。



ポイント

外部との連携を円滑に進めるためには、まずは相互理解を深め、綿密な計画を立てることが大切である。

全校児童の名前を入れ、作品は学校のシンボルとなった。

鼓動さんと交流をして、大きな太鼓をたたかせてもらうだけでなく、給食や昼休みも一緒に遊ぶことができ、楽しかったです。特に、給食のときに聞いた、一流になるための努力の話に感動しました。テレビも携帯もないところで何年も修業することは本当にすごいと思いました。

(5年生児童の日記)



実践例④ 「全校給食集会」



【概要】 少人数のよさを生かして、毎月、全校給食日を設定している。自分のクラス以外の友達と食べることを楽しみにしている児童も多い。



普段とは違い、いろいろな先生や友達と会話をしながら、食事の楽しさを体験することができた。

上級生が下級生に準備や片付けの見本を見せたり教えたりすることで、互いに学び合うことができた。

全校給食で、掃除の班の友達とカレーを食べました。掃除は無言なので、お話しできないけれど、今日は楽しい話をいっぱいしながら食べました。またみんなで食べたいです。

(3年生児童の日記一部抜粋)

毎回同じメンバーにするのではなく、様々な班編成にすることで、人間関係を構築することができる。そのためには、教師は普段から児童の様子をしっかりと見て、全校給食を行う意義を考える必要がある。

流れ	時間	活動	備考
	11:40～11:50	準備	各教室で準備をする。 お盆ごと図書室まで運ぶ。 1・2年生は、5・6年生が運ぶ。
	11:50～12:20	会食	「いただきます。」(6年〇〇) 「ごちそうさま。」(6年〇〇) 掃除の班で食べる。 教員は、10月の掃除の班担当に入る。 校長先生は、自由に見て回る。
	12:20～12:30	片付け 歯磨き	各教室に帰って、片付ける。 歯磨きをする。 完食できていない子は、教室で続きを食べる。

黒板		
○ ○ ○ 1 班 ○ ○ ○	○ ○ ○ 2 班 ○ ○ ○	○ ○ ○ 3 班 ○ ○ ○
□	□	□
○ ○ ○ 4 班 ○ ○ ○	○ ○ ○ 5 班 ○ ○ ○	○ ○ ○ 6 班 ○ ○ ○
入口		

※ 会食前後の台拭きは、〇〇先生にお願いする。
※ 会場設営は、〇〇がする。

実践例⑤ 「学校探検集会」

【概要】 ワークシートと同じ場所を見つけたら、写真を撮ってロイロノートで提出するようにした。高学年を中心に、写真を撮る人、隅々まで探す人、ルートを考える人など、班での役割分担を考えていた。また、1年生は生活科での学校探検の経験を生かして取り組むことができた。

自然と会話が増える活動のため、普段あまり接点のない児童同士を同じ班にすることも効果的である。

全校集会（学校探検集会）

4 流れ ※ 進行 6年		備考
活動		
1	はじめのあいさつ	○ 指定された縦割り班の座席へ座る。
2	説明	○ ワークシートを班長へ配付する。 ○ ワークシートと同じ場所を見つけたら、タブレットで写真を撮り、ロイロノートで提出する。
3	学校探検	
4	結果発表	○ 集計結果を発表する。
5	感想発表	○ 各学年1人ずつ発表する。
6	終わりのあいさつ	

この活動の経験が、その後の縦割り班活動の充実につながったため、年度初め等の早い段階で行うと効果的である。

ポイント

児童同士で盛り上がりながら楽しい活動はできたが、リーダーに付いていくだけの受動的な活動をしている児童が見られた。一人一人が活躍できる場面を設定するなど、活動のねらいを明確にして、内容の充実を検討する必要がある。



【集会で使用したワークシート】



普段から生活している学校でも、まだまだ知らない場所や見ていない場所がたくさんありました。でも、みんなで学校を探検できたことが楽しかったです。もっと学校のことを知りたくなりました。（4年生児童の日記一部抜粋）



実践例⑥ 「オリエンテーリング集会」



学年を問わず児童全員が楽しみながら参加できるゲームを考え、教員全員の役割分担を明確にして児童の活動をサポートする。

縦割り班にすることで、高学年が班のメンバーを引っ張りながら活動し、リーダーとしての成長が見られた。

いつもあまりあそばない人と、いっしょにクイズやゲームができたのがたのしかったです。ゲームで〇〇ちゃんが10びょうびったりでとめたのがすごいと思いました。
(1年生児童の日記)



ポイント

児童自身がゲームの内容等を考えるなどの企画・運営に関わらせると、更に活動に対する意欲が増し、主体性をもってよりよい活動ができる。

【概要】 クイズやゲームを準備し、4人程度の縦割り班で校内を回りながら得点を競った。実践例⑤の学校探検集会をバージョンアップさせ、経験を生かしながら盛り上がる事ができた。

全校集会 (オリエンテーリング集会)

4 流れ 60分で計画 ※ 進行 6年 ()

活 動	備 考
1 はじめのあいさつ	
2 説明 ※先生方はチェックポイントへ移動する。	○ チェックポイント (先生方) と、指令が書かれた封筒が校内に5カ所ずつあるので、それぞれ探してお題を解く。(各10点×5問=50点) ○ ワークシート (問題が入ったプリント) を各グループの班長に配付する。班長は、探検バックにはさむ。 図書室: ○〇先生 (※タイムキーパー) 音楽室: ○〇先生 【①ペットボトルキャップ】 体育館: ○〇先生 【②ボールすくい】 保健室: ○〇先生 【③カード】 コンピューター室: ○〇先生 【④10秒】 学習室3: ○〇先生 【⑤スクラッチ】 写真: ○〇先生 【⑥写真】 ○ 集計結果を発表する。
3 オリエンテーション ※30分 (オリエンテーション) ※10分 (休憩)	
4 結果発表	
5 感想発表	
6 おわりのあいさつ	

5 各チェックポイントと内容

【活動編】

- ①体育館 (〇〇先生) …ペットボトルのキャップを2つくっつけた部品をなるべく多く積む。
- ②ポプラ (〇〇先生) …ボールプールのボールをかごですくって、なるべく多くすくう。持ち上げたらかごの両脇を持たせ、ボールに手がかからないようにする。
- ③家庭科室 (〇〇先生) …1~12まで書かれたカードを全員が同時に1枚ずつ引く。カードを裏返しにし、根元をまとめてもってひねる。ひねった状態で1人1本選ばせ、5人同時に引かせる。
- ④学習室2 (〇〇先生) …ストップウォッチで10秒を見ないで止める。全員参加。10秒が一番近かった記録を採用する。
- ⑤学習室3 (〇〇先生) …全員でスクラッチをする。当たりかはずれの2択。

【クイズ編】※⑥~⑩については、校内に封筒をつるしておくので、その中に指令を1枚ずつ取る。

- ⑥図書室 …指示: ○〇先生に会って、全員の記念写真を撮ってもらおう。その時、〇〇先生に「写真よろしくお願いします」ということ。○〇先生は校舎内をうろろし、キーワードを言ったチームについて写真を撮る。
- ⑦学習室1 …ドラえもんの秘密道具
- ⑧図工室 …しりとり
- ⑨音楽室 …クイズ1
- ⑩ろうか …クイズ2

簡単に盛り上がるゲームがよい!

成果と課題

単発的なイベントにならないように、各活動のねらいや意義を明確にし、全教職員で思いを共有し、児童の心身の成長につながる活動にすることが大切！

豊かな人間関係を構築することによる自己有用感

- 異学年集団の活動を通し、児童同士の声掛けや協力が日常的に見られるようになった。
- 役割を果たす経験が「自分は役に立っている」という実感につながった。
- 活動によっては受動的な参加にとどまる児童も見られたため、発達の段階に応じて全員が主体的に関わる役割設定等の工夫が必要である。

人との関わりに喜びを感じ、認め合うことによる自己肯定感

- 活動の振り返りを通して、互いのよさを認め合う関係が形成された。
- 活動後の児童対象のアンケートでは、「自分にいいところがある」の質問に92%の児童が「はい」と回答している。
- 振り返りが表面的になる場面もあったため、視点を明確にした振り返りの充実が必要である。

リーダーシップを育成し、物事への主体的な関わりによる自己効力感

- 児童が、集会の企画・運営に主体的に関与していくようになった。
- 成功体験の積み重ねにより「自分たちはやればできる」という意識が向上した。
- 活動の見通しや準備が不十分な場面もあったため、教師の適切な支援と児童に段階的に任せる場面が重要である。

